

平成 23 年度 2次評価（基本施策評価）シート

基本施策名	36	歴史や文化を守り、未来へと引き継ぐ	評価責任者 (基本施策主管課長)	生涯学習課長 児玉 泰清
-------	----	-------------------	---------------------	-----------------

基本施策の現状分析及び意図

基本施策の体系	基本目標 政 策	継承 歴史・文化を守り、未来へとつなげるまちづくり
① 市民意識調査結果		<p>②左記結果に対する現状分析・市民との協議結果</p> <p>市民意識調査によると、本基本施策の必要度は68施策中34、満足度は68施策中7となっている。 回答を分析すると、必要度では「力を入れて欲しい」「どちらかといえば力を入れて欲しい」が大多数を占め、「地域の歴史が受け継がれている」かについて満足意識が57.7ポイント、不満意識が39.5ポイントとなっていることから、地域の歴史を受け継いでゆくための意識高揚と文化財の保護などに対する理解を高める必要があると考えられる。</p>
③ 基本施策の現状と課題	<p>①地域における文化財の価値が十分理解されていないため、文化財保護の気持ちが高まらない状況にある。 ②郷土愛に結びつくような文化財の活用などについて対策を充実する必要がある。</p>	
④ 基本施策の意図、今後の展望	<p>伊賀市の人びとすべての共有の財産として、文化財に対する理解を深め、保護する心を育てるとともに、これからも文化財の調査と保存・伝承ならびに活用を行い、次の世代に引き継いでいく。 ①『伊賀市史』を発刊し、郷土史に対して市民に理解を深めてもらう。 ②文化財の市指定や登録を推進する。 ③地域の伝統文化を調査、記録し継承するとともに、郷土の文化財施設を公開・活用し、郷土愛の普及に努める。</p>	

⑤基本施策指標の検討・設定

現状の課題、意図、今後の展望のキーワード	考えられる基本施策指標候補	優先順位
『伊賀市史』の発刊	伊賀市史発刊数	1
文化財の市指定	市指定文化財に指定する数	3
文化財施設の公開	入館者数	2

基本施策指標名	単位	過年度実績		評価年度 目標値			ベンチマーク	指標の説明
		H21	H22	H23	H25	H27		
伊賀市史の発刊数	目標	刊		3	4	5	6	伊賀市史歴史編発刊数
	実績	刊	2	3				
	達成率	%	#DIV/0!	100.0				
文化財施設の入館者数	目標	人	-	-	17000	18000	18000	文化財施設への入館者数
	実績	人	18748	16327				
	達成率	%	#VALUE!	#VALUE!				
市指定文化財件数	目標	件	276	277	277	277	278	文化財件数
	実績	件	273	276				
	達成率	%	98.9	99.6				
	目標							
	実績							
	達成率	%	#DIV/0!	#DIV/0!				

⑥基本施策構成事務事業の評価

担当課	ID	事業名	改善余地の有無	事業費(人件費込、単位:千円)			優先順位	
				H22 決算額	H23 予算額	H24 所要額		
1	企画総務部総務課	157	市史編さん事業		40,180	34,481	33,023	1
2	生涯学習課	811	文化財保存経費		15,273	14,790	14,750	6
3	生涯学習課	825	国史跡上野城跡保存整備事業		23,600	18,600	18,600	3
4	生涯学習課	826	国史跡旧崇徳堂保存整備事業		7,040	3,440	3,940	4
5	生涯学習課	828	伊賀国庁跡公有化事業		16,820	20,720	25,250	2
6	生涯学習課	2326	国史跡国庁跡環境整備事業		0	1,120	1,370	5
7	生涯学習課	2345	国史跡上野城跡高石垣計測事業		0	0	6,327	7
8								
9								
10								
(以下 続紙)								
事業費 合計					102,913	93,151	103,260	

⑦ ⑥以外で、目標達成に必要な事業

事業名	事業主体	事業内容等
伊賀市の文化財冊子作成事業	伊賀市	伊賀市内に点在する指定文化財を紹介する冊子を作成し、文化財を活用するとともに文化財に対して市民の理解を深める。頒布(有償・無償)

⑧ 基本施策の現状分析に基づく改革案の説明

評価視点	評価コメント
1 基本施策指標の分析	基本施策指標である伊賀市史の刊行については、市史編纂を進め計画的に発刊できるよう努める。また、市指定文化財件数については、前期計画の目標が達成できていなかったためH25までに達成できるよう努める。文化財について市民に理解されるよう、文化財施設を活用した事業を行うなどPRする。
2 事業構成の適当性(手段として最適か?)	適当と考える。
3 役割分担の妥当性	文化財について保護ボランティアを養成し市民参加を得るとともに、文化財施設については入館料を負担してもらっている。
4 総合評価(今後の展開、事業の見直し等)	『伊賀市史』については、平成27年度の間全6巻を刊行することになっており、書籍の計画的な発刊を行うとともに販路、販売促進を強化し歳入の増加を図る必要がある。文化財について計画的な調査、保存管理を行い保護、伝承を推進する。文化財施設については、指定管理者に委託をしているが、企画展、講座等の開催数を増やすなど利用者の増加に努めるとともに、市民参加を得る事業を行い文化財への理解を深める。